

年 譜

(Chronology)

1857	11.22	トマス・ウォラー・ギッシングとマーガレット・ベッドフォード・ギッシングの長男として、ヨークシャー州ウェイクフィールドに生まれる。
1859	09.15	弟ウィリアム・ギッシング誕生。
1860	11.25	弟アルジェノン・ギッシング誕生。
1863	10.27	妹マーガレット・エミリ・ギッシング誕生。
1863-70		この年代のある時期に、ミス・ミルナーの子供学校、それからジョゼフ・ハリソン師の共同教会学校（共にバック・レーンのユニテリアン派の校舎にあった学校）に通う。また、1866年開校の美術学校の授業に出席する。
1867	04.04	妹エレン・ソフィア・ギッシング誕生。
1870	12.28	父トマス・ウォラー・ギッシングが肺充血で死去。
1871		ジョージ、ウィリアム、アルジェノンの3人はチェシャー州オールダリー・エッジのリンドウ・グロウヴ・スクールにやられる。
1872		マンチェスターのオーエンズ・カレッジに入学。オールダリー・エッジから通学する。
1875-76	冬	メアリアン・ヘレン・ハリソン（1858年2月25日生まれ）に会う。
1876	3月	メアリアン・ヘレンと同棲を始める。
	03.31	オーエンズ・カレッジの更衣室で金を盗み、窃盗罪で逮捕される。
	06.06	有罪の判決を受け、1ヶ月の監禁を言い渡される。
	06.07	オーエンズ・カレッジから退学処分を受ける。
	9月	リヴァプール港からアメリカのボストンへ出立。
	12月	マサチューセッツ州ウォルサムのウォルサム・ハイスクールで臨時教員の職に就く。

ギッシングの世界——全体像の解明をめざして

1877	03.01	授業に姿を見せず、シカゴに向かう。
	3-7月	シカゴの新聞社に短篇小説を幾つか売り込む。
	7-8月	ニューヨーク州トロイへ移動。写真屋の手伝いとしてマサチューセッツ州とメイン州を旅する。
	9月	ボストンを離れてイギリスに帰国。
	10.03	リヴァプール港に到着。
	10-11月	この期間にロンドンで生活を始め、メアリアン・ヘレンとの同棲を再開する。
1878	1月	最初の小説を手掛けるが、未発表に終わる。『ティンズリーズ・マガジン』の1878年1月号に「芸術家の子供」(改訂版、最初に掲載されたのはシカゴの『アライアンス』1877年6月30日号)を発表。
	07.12	別の小説に着手したとアルジェノン宛ての手紙に書くが、未発表に終わる。
	07.24	最初の小説は出版社に拒否される。
	09.02	『コーンヒル・マガジン』に詩を送るが、掲載されず。
	11.08	成年に達する21歳の誕生日に遺産を受け取ることになると弟ウィリアムから聞かされる。
1879	01.17	亡命中の社会主義者エドゥアルト・ベルツと新聞広告を通して知り合う。
	4月	約300ポンドの遺産を受け取る。
	10.27	ネル(メアリアン・ヘレン・ハリソン)とロンドンのハムステッド・ロードにあるセント・ジェイムズ教会で国教会の慣例に従って結婚する。
	11.12	『暁の労働者たち』が完成。
1880	1月	『暁の労働者たち』が幾つかの出版社に拒否される。
	02.26	レミントン社との契約にサインし、遺産から『暁の労働者たち』の出版費を払う。
	04.16	弟ウィリアムが肺血管の破裂で死亡(享年20歳)。
	05.28	『暁の労働者たち』をアルジェノンに贈呈。
	07.09	『暁の労働者たち』を実証哲学協会のフレデリック・ハリソンに献本。長い交友が始まる。
	09.04	『ペル・メル・ガゼット』の編集長ジョン・モーリーが

		「社会民主主義に関する覚え書き」を出版することに同意する。
	11.27	ツルゲーネフから『ヴェースニク・イヴローピ (ヨーロッパ通報)』に年4回の記事を書くように頼まれる。
	12.05	フレデリック・ハリソンの息子たちの家庭教師を始める。
1881	1月	実証主義者のカレンダー(28日×13ヶ月+うるう日)を使い始める。
	07.27	ベルツがテネシー州ラグビーに向けて出立。
1882	01.19	ネルがテムズ河南岸のバタシーの廃疾病院に送られる。
	5月	廃疾病院を出てセント・パンクラスのシーフォードに住んでいたネルが、今度はケンジントンに移る。それからまたソーホー・スクウェアに戻る。ギッシングは(別居のために)週1ポンドの手当を与える。
	10.06	この日付までにネルはギッシングの所(チェルシーのオークリー・クレセント17番地)に戻っていた。
	12.26	ベントリー社が「グランディー夫人の敵たち」に50ギニーを申し出るが、結局は未刊となる。
	12.27	ネルは家具の半分を持ってバタシー南東のブリクストンへ移る。
1883	06.08	ベルツがアメリカから帰英。
1884	03.16	新しい小説と「無鉄砲者」(未刊)という題の劇に着手。
	3月	ベルツがドイツに帰国。
	6月	『無階級の人々』をチャップマン・アンド・ホール社から出版。
	08.28	エリザベス・セアラ・ゴサン夫人(ハリソン家の友人でギッシングが理想とする女性)に会う。
	11月	『イザベル・クラレンドン』を執筆する。
	11.24	リージェント・パーク南側のコーンヒル・レジデンス7Kを3年契約で借りる。
1885	5-6月	妹エレンがロンドン来て、彼と一緒に2週間を過ごす。
	08.12	『イラベル・クラレンドン』を出版社に送る。

ギッシングの世界—全体像の解明をめざして

	11.05	『人生の夜明け』(最初のタイトルは『エミリ])をオズモンド・ウェイマークの筆名でスミス・エルダー社に送る。
	12.11	弟アルジェノンがロンドンに来て、彼と一緒に数ヶ月を過ごす。
1886	3月	『民衆』をスミス・エルダー社から出版。
	03.20	フランス(最初のヨーロッパ)旅行。
	6月	『イラベル・クラレンドン』をスミス・エルダー社から出版。
	06.30	トマス・ハーディに会う。
1887	01.15	『サーザ』が完成。その後、休息のためにイギリス海峡に臨む保養地イーストボーンに行く。
	4月	『サーザ』をスミス・エルダー社から出版。
	06.23	エドワード・クロッド(ハーディの昔からの友人)に会う。
1888	02.29	イースボーンにてネルの死の知らせを聞く。
	03.19	『ネザー・ワールド』に着手する。
	09.26	ドイツ人のプリットと一緒にパリ経由のイタリア旅行を開始する。
	11月	『人生の夜明け』をスミス・エルダー社から出版。
1889	03.01	イタリアから帰国。
	03.24	モーリー・ロバーツの紹介で当時はまだ無名の博物学者だったW・H・ハドソンに会う。
	4月	『ネザー・ワールド』をスミス・エルダー社から出版。
	5月	『民衆』をドイツ語に翻訳する許可を求められる。
	06.09	イーディス・シチル(1888年4月に『マリーズ・マガジン』でギッシングを評価したアマチュア文芸批評家)に最初の手紙を書く。
	11.11	ギリシャに向けて旅立つ。
1890	02.28	イタリアに少し滞在したのち、ギリシャからロンドンに戻る。
	3月	『因襲にとらわれない人々』をベントリー社から出版。

	09.24	この日か、その前にイーディス・アンダーウッドに会う。
1891	01.14	エクセター州プロスペクト・パーク 24 番地へ引っ越す。
	02.25	セント・パンクラス登記所でイーディス・アンダーウッドと結婚。
	4 月	『三文文士』をスミス・エルダー社から出版。
	08.09	有名な著作権代理人、A・P・ウォットに『ゴドウィン・ピーク』（『流謫の地に生まれて』の原題）の出版社を探してくれるように依頼する。
	08.25	エクセター州セント・レナーズ・テラス 1 番地に引っ越す。
	09.26	新しい出版社のロレンス・アンド・プリンから小説出版の依頼を受ける。
	12.10	長男ウォルター・レナード誕生。
1892	2 月	『デンジル・クウォリア』をロレンス・アンド・プリン社から出版。
	5 月	『流謫の地に生まれて』をエディンバラの A&C・ブラック社から出版。
1893	4 月	『余計者の女たち』をロレンス・アンド・プリン社から出版。
	05.10	クララ・コレット（ロンドン大学で経済学の学位を初めて取った女性）からの最初の手紙を受け取る。
	06.26	ブリクストンのバートン・ロード 76 番地に引っ越す。
1894	06.01	ブリクストンの家を手放し、夏の間はブリストルの西にある海岸保養地クリーヴドン、次にサリー州のドーキングに、それから同州のエプソムに移る。
	09.15	エプソムのウォーブル・ロードにあるエヴァズリーへ引っ越す。
	11.07	裕福な不動産譲渡取扱人で、のちにギッシングの晩年の親友となるイライザ・オームに会う。
	12 月	『女王即位 50 年祭の年に』をロレンス・アンド・プリン社から出版。

ギッシングの世界—全体像の解明をめざして

1895	4月	『イヴの身代金』をロレンス・アンド・プリン社から出版。
	04.21	エドワード・クロッドに招待され、サフォーク州オールドバラで聖霊降臨節の週末を過ごす。以来、長い友情が続く。
	04.25	子供時代の友人で、のちに医者となったヘンリー・ヒックとの文通が始まる。
	07.13	オマル・ハイヤーム・クラブでジョージ・メレディスと出会い、9月に彼を訪問する。
	12月	『埋火』をアンウィン社から出版。
1896	1月	『下宿人』をカッセル社から出版。
	01.20	次男アルフレッド・チャールズ誕生。
	04.22	長男ウォルターをウェイクフィールドで新しく予備校を始めた妹たちに預けることに決める。
	11.20	オマル・ハイヤーム・クラブの晩餐会でH・G・ウェルズに会う。
1897	02.10	イーデイスを残し、5月末までデヴォン州の海岸町バドリ・ソルトトンで一人暮らしをする。
	4月	『渦』をロレンス・アンド・プリン社から出版。
	05.31	エプソムに帰宅してイーデイスと暮らす。
	09.17	イーデイスと別れ、ほぼ7年に及ぶ結婚生活を終える。
	09.22	ディケンズに関する本を書くために、ロンドンを発ってイタリア中部のトスカナ州シエナへ行く。
	11月	『人間がらくた文庫』をロレンス・アンド・プリン社から出版。
	12.15	カラブリアで5週間を過ごしたのち、ローマに到着。
1898	2月	『チャールズ・ディケンズ論』をグラスゴーのブラッキー社から出版。
	03.09	ウェルズ夫妻がローマ滞在中のギッシングを訪問。
	04.12	ドイツのポツダムに住むベルツを訪ねるためにローマを離れる。
	04.18	ベルリンを発ち、19日午前11時にヘンリー・ヒックの家(ドーヴァー近くのニュー・ロムニー)に到着。

	05.06	ドーキングのクリフトン・テラス7番地に家を借りる。
	06.23	ガブリエル・フルリからの最初の手紙を受け取る。
	07.06	H・G・ウェルズの家(サリー州ウスター・パーク)でフルリ嬢に会う。
	07.26	ガブリエルがドーキングでギッシングと1日を過ごす。
	8月	『都会のセールスマン』をメシュエン社から出版。
	09.07	イーディスおよび次男アルフレッドと最後の面会。
	10.08	ガブリエルがイギリスに来て、ドーキングで1週間を過ごす。
1899	05.06	ルアン(フランス北部のセーヌ川に臨む市)にいるガブリエルと合流するために離英。翌日そこで二人は彼女の母親を唯一の立会人にして秘密裡に結婚する。
	06.02	パリのシャム通りに住居を定める。
	10月	『命の冠』をメシュエン社から出版。
1900	04.02	イギリスへ行き、家族、クロッド、ウェルズを訪ねる。
	05.01	フランスに戻る。
	05.25	ニエーヴル県サントノレ・レ・バンに移り、夏の間ヴィラ・デ・ローズを借りる。
	11.19	パリに戻る。
1901	5月	『我らが大風呂敷の友』をチャップマン・アンド・ホール社から出版。
	05.27	ガブリエルと一緒にウェルズの家(ドーヴァーに近い海岸町サンドゲート)に到着。1週間後、ウェルズと気が合わない彼女は一人でパリに戻る。
	06.24	ヒック医師の勧めでサフォーク州ネイランドのイースト・アングリアン療養所に入る。
	6月	『イオニア海のほとり』をチャップマン・アンド・ホール社から出版。
	8月上旬	フランスのフルリ母娘が夏を過ごすブルゴーニュ地方のオータンに戻る。
	12.03	ジロンド県アルカシヨンのヴィラ・スヴニールに引っ越す。
1902	1月	イーディスが精神病院に入れられる。

ギッシングの世界—全体像の解明をめざして

	04.24	アルカシオンからスペイン国境近くの海辺の町サン・ジャン・ド・リューズに1ヶ月ほど移り、それからパリに戻る。
	07.02	サン・ジャン・ド・リューズへ移動。
	10月	フォースター著『ディケンスの生涯』の改訂縮刷版をチャップマン・アンド・ホール社から出版。
1903	1月	『ヘンリー・ライクロフトの私記』をコンスタブル社から出版。
	07.01	避暑のために隣町のサン・ジャン・ピエ・ド・ポールに引っ越す。
	12.28	父親の33回忌の日、午後1時15分に死去。
1904	9月	『ヴェラニルダ』がコンスタブル社から出版される。
1905	6月	『ウィル・ウォーバートン』がコンスタブル社から出版される。